

(社)日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会
第10回 確率論的安全評価分科会 (PISC) 議事録

1. 日時 平成13年3月6日(火) 13:30~17:00
2. 場所 原子力学会 会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 平野(主査), 矢作(幹事), 加藤, 福田, 中井, 成宮, 藤本, 松本,
森田, 山下(10名)
(欠席委員) 古田(副主査), 佐藤, 村松(3名)
(傍聴者) 榎本, 門田(2名)
(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

PISC10-1 第9回 確率論的安全評価分科会議事録(案)

PISC10-2 標準原案(各分担分)

-1 総論

-2 1. プラントの構成・特性の調査

-3 2. 起回事象の選定

-4 4. 成功基準の設定 / 5. 事故シーケンスの分析

-5 6. 緩和系の信頼性評価

-6 7. 従属故障評価

-7 8. 人間信頼性解析

-8 9. データベースの作成

PISC10-3 日本原子力学会標準制定スケジュール(案)

PISC10-4 免責条項/著作権/標準の利用にあたって

参考資料

PISC10-参考1 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事

議事に先立ち、事務局より、委員13名中10名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回議事録の確認

前回議事録について、承認された(PISC10-1)。

2) 標準原案検討

福田, 矢作, 成宮, 加藤, 森田, 藤本の各委員より、資料PISC10-2-1~5により、各委員で分担作成した標準原案(素案)の説明があり、以下のような審議がおこなわれた。

①総論関連

- ・高速炉に対する停止時PSA実施例は、解説に記載する方向で検討する。
- ・適用事例におけるフランス(RHR機能喪失時の充てん系運用)及び米国サリー(ミッドループ運転の回避の継続)について再確認する。
- ・米国適用例では、主として評価の目的と結論を記載する。炉心損傷頻度はその中で言及する。
- ・我が国の適用例で、PSRに係わる記載を実施目的等について追記する。併せて、別項目で研究機関の実施例も記載する。
- ・図3.1は、各実施プロセスとの整合をとる。
- ・低温過加圧事象については、3章で記載する。
- ・文章体裁として、「...望まれる。」等の表現は、「...すれば、...できる。」又は「...であることは考えられるが、本手順書では対象外とすることとする。」に変更する。(各章共通)
- ・その他語句の適正化

②第1, 2章関連

- ・表2-2におけるPWR記載内容を考慮すべき項目の観点に整合するよう修文する。
- ・PWRについて一次系開放状態に係わるPSA実施上の留意点をPOSの解説に追記する。
- ・PWRの再分類(崩壊熱関連等)に係わる記載を主旨に合うよう再検討する。
- ・2.1の表題を「プラント運転状態(POS)の分類」とする。
- ・その他語句の適正化

③第3章関連

- ・3.2(1)a.の「なお、...」において起回事象の発生は記録されている場合も、他のPOSへの反映も考慮するよう記

載する。

- ・解説3. 1 「1. インターフェースLOCA」第一段落「出力時PSA…」の文を削除する。
- ・解説3. 1 「3. 反応度投入事象」において、制御棒に係わる記載は、B,P共通とし、PWR起動時のホウ素希釈についての記載を追記する。
- ・解説3. 3 「1. プラント運転経験から…」において発生件数が0でない場合の算出法に関して本文記載の計算式との関連して記載する。
- ・その他語句の適正化

④第4、5章関連

- ・5章本文において、大イベントツリー法に関する記載を小イベントツリー法に対比させて追加する。また、解説5. 1において、大イベントツリーの例示を含め、記載内容の追加を検討する。
- ・「リスク評価」は、炉心損傷頻度評価等に変更する。
- ・その他語句の適正化

⑤第6章関連

- ・(1)手法の概要において大イベントツリー/小フォールトツリー法について記載し、以下の各項において小イベントツリー/大フォールトツリー法との相違点等を記載する。
- ・試験後の保守の扱いについて解説において記載する。

6. 次回の予定

第11回分科会を予定通り3月12日(月)に行う。時間は16:30から原子力発電技術機構で行うこととした。内容は第7章以降の検討で、更に、各自自章の用語集(案)を持ち寄り突き合わせを行うこととした。

以上